

スタッフが取り囲んでいて、そしてさらにその周りをコミュニティの委員会の人たちが取り囲みたいな、サポートシステムを作り上げていくことが必要だと思います。

最後になりますが、日本の年長児へのサポートということで考えますと、15歳から18歳ないし20歳までの支援の必要な若者は、自立するために治療的ケアが必要な人も多いことを理解し、もっと社会に周知してもらおうということも必要だと思います。自立援助ホームに行った時に、施設長さんがおっしゃっていたことは、ここは心理的なカウンセラーもいませんし、それよりも自立させるということが、目的なのでそういうところに力を注げないということでした。児童養護施設ではカウンセラーが今は配置されるようになっていきます。そこで心の問題のパンドラの箱を開けたような状態になったまま来る人もいて、その対応も非常に大変だとおっしゃっていました。そこで心理的な治療ができるような人員の配置というのにも必要かもしれません。

あと、年長児のための治療的ケアを含めたファミリーホーム創設の必要性があります。このあたりも吉田さんのような力のある方、治療的などころも含めてやっておられる方もありますが、やはり年長児を委託された里親さんたちの大変さを理解しなければなりません。

Lighthouse では、若者とケアをする人、両方のサポートが必要という視点でとりにくんでいます。日本の場合、里親さんとか養育者の方は専門家としてケアの対象としてはみなされていないところがあります。心が傷ついた子どもたちをみるということは、里親さんも施設職員もやっぱり二

次被害を受けることがあるし、そこを支援し、サポートするという視点も必要だと思います。そういう意味で年長児の場合はある程度職員との距離も必要になってくるので、こういうグループホーム、ファミリーホームという形で運営していくことがひとつの方策として考えられると思いました。

22. 最後に: 治療的ケアプログラムの構築と普及

①15~20歳までの支援の必要な若者が自立するためには治療的ケアが必要であることの理解と周知

②年長児のための治療的ケアを含めたファミリーホーム創設の必要性

③治療的ケアプログラムを構築し、人材を養成するためのセミナーの実施

あと、治療的プログラムを構築して人材を養成するためのセミナーの実施です。Lighthouse でもセミナーを定期的に行っています。セミナーをするための職員もいて、あと、リサーチャーといって、やっぱりここでやっていることをちゃんと検証して evidence を作っていく職員も今年雇い入れたそうです。どんどん広めていこうと取り組んでおられました。そういう意味もあって今年8月に学会が作られて、パトリックさんもそこで講演者として招聘されました。

日本と比較して考えた時にこういう視点は必要なのではないかと、調査を通して痛感して戻ってまいりました。

以上です、ありがとうございました。

(拍手)

司会：森和子先生、どうもありがとうございました。森和子先生には後半にもう一度

登壇していただくこととなりますが、もしこの場で内容について確認したいことがあるという方がいらっしゃればですが――。それでは後半にとっておくということにしまして、これから10分ほど休憩を取りたいと思います。では2時20分になりましたら、次の発表を始めたいと思います。

(10分休憩)

司会：それでは時間になりましたので、吉田さんのご発表をよろしくお願ひいたします。



吉田菜穂子：こんにちは。では座らせてお話をさせてもらいます。福岡県の遠賀郡という玄界灘に面した田舎町で吉田ホームというファミリーホームを営んでおります。1998年、平成10年に里親になりまして、最初の子どもが来ました。その後たくさんの子どもたちとご縁をいただいて、福岡県は平成22年にファミリーホーム制度が、国より1年遅れで制度化されましたので、いわゆる里親からファミリーホームへ移行しました。その前にこの中にもいらっしゃいますが、ファミリーホーム制度化運動に参加いたしまして、ファミリーホー

ムの制度を福岡県にも作って欲しいという運動に参加しました。そしてファミリーホームが制度化されますけれども、福岡県はそれからまた遅れること1年ですね。児童家庭課に「狭いから、家を建てるから、ちょっといろいろと縛りがあると思うけど、ファミリーホームができるはずだ」と言って相談し、制度化を目指して家を建て増しました。そうやってファミリーホームになりました。何でファミリーホームにして欲しかったと言いますと、多人数養育をしております、来る子、来る子、大きい子ばかり委託されたからです。最初は良かったのです。2歳と4歳の子が来ました。まあ小さい子は可愛いですよ。うちの子が8歳でしたので、2歳、4歳、8歳なんて七五三みたいで滅茶苦茶可愛かった。これにだまされたんですね。この可愛さで、「里親って何て楽しいんだろう！」って。だからいっぱい預かってあげたいなって、そういう気持ちになりましたが、その次に来た子が15歳でした。参ってしまいました。もうことごとくお金がかかります。その当時は何にも知らなかったのです。15歳で中学校3年生の冬からやってきて、「学力がないからもう私立の高校しか行けません」と学校の先生に言われて。しかもですね、1年近くも給食費を滞納していました。保護者変更の手続きをするとですね、請求書がガバッと来るんですね。1月から委託になりましたが、「何で4月から12月までの9か月分も払わなくてはならないの？」ウチが罰かぶるの？って、正直思うわけです。しかもですね、給食代の他にも校納金を払っていません。それで、校納金払っていないとどうなるかと尋ねると、卒業の時の記

念品とか、アルバムとかが無いと学校は答えるのです。「払わなくてもいいです」「しかし、記念品などきません」と。「だからいいです」と。そんな子どもを前にして卒業のアルバムが無いとか、そういうわけにはいかないの、もうそこは罰かぶったつもりで払うわけです。そうすると今度は学力がないです。公立高校、福岡県の場合は県立高校ですが、県立高校に行くだけの学力はありません、とききました。「ああそうですか、わかりました」と。「そしたら私立だったらいいですかね？」って言いましたら学校の先生が、「うう…」って言われるわけですよ。「ちょっと無理かな…」と。そこは私、昔ちょっと塾の先生を生業としていたので、そしたら、「では専願はどうですか？」って。そこの高校に行くためのテストがあるのです。「専願いいですけども、申込みは明後日までです」って。で、「明日学校に行ったら申込書を貰ってきますので、お金と一緒に明後日まで」、つまり1日で申し込み書を書いてすぐに出してくださいって。慌てまくって書きました。受験費用すぐに要るわけですよ。専願です、受験日まで2日しかありません。受かりました。翌週には納金です。私は当然、その当時私立高校だったら入学金ぐらいは、県とかからお金が来ると思っていました。福岡県というのは、国の制度そのままなので来ないのです、高校入学時、5万7千円くらいしかこなかったのです。ところが、私立高校に入学させるとなったら片手かかるわけですよ。片手かかるということは、50万かかりますね。てっきり後で返ってくるものと思っていました。ところがこない。差額、里親持ち。道理でみんな避けるはずだと思いました。

のちのち他の里親さんに聞いてみると、「こんよ」、と。「えっ！立て替えたの、こないの？」仕方がない、と、子どものことだからと1回目は諦めたのですが、次から次へと来るのが中3ばかり。毎年、中3が来るのです。見事に中3です。そのたびに学力が無いのです。公立高校だったらちょっと良かったと思いますが、学力が無いので、みんな私立に行ってくださいものですから、そのたびに我が家はお金をかき集めなければいけないということが続きました。それでこれはやってられない、と。ファミリーホームになって、何か経費とかでないかなって思ったら東京とか、やっているらしいと。「えっ！ウソ」と。何で地方はでないの？って。この格差に愕然としまして、ファミリーホーム制度化運動に片足を突っ込みました。突っ込んだのはよかったのですが、それが抜けられなくなった始まりだと思っています。

現在は、夫58歳と私55歳。私どもには、特別養子縁組がスタートした時の娘がいます。今、17歳、高校2年生です。里子は、18歳の特別支援学校を卒業して一般就労中の女の子、この子は、2年半になります。18歳の男の子、上の女の子と同じ特別支援学校の高等部に行っていましたが、うちに委託されて1年で、すごくお利口になったのですが、それは今まで小学2年から中学3年までろくに学校に行っていなかった子が真面目な生活をするようになったからです。知的障害者の療育手帳を取る予定で児相は進めていたようですが、私のところに来た時に、もう中3の3月で、入る学校が決まっていたので1年間通いましたが、だんだん普通の子になってきて、

I Qが多分、児相で測った時は60そこそこだったということでうちに来ましたが、どういう測り方をされたか知らないですが、半年でI Qが90いくつになったのです。これはもう支援学校なんかにはやってられません。よって私立高校に受験し直しです。で、今、高校3年生ですね。もう学校一のチャラオって言われていますけれども、とっても可愛いです。3年ぐらい前にファミリーホームの九州大会で子どもにお話させた時、何かほわっとした子どもでしたね。ここに、ごらんになった証人がおられますね。ほわっとした坊ちゃん、坊ちゃんした子です。今は何か雑誌から抜け出たような可愛いというか、今風の子に変わっています。3年半経ちました。

その次にいるのは、16歳の女の子がいます。私立高校の1年生です。受託して3年2か月くらいになります。その下に今年の3月に他の里親さんを経由してきた子がいます。特別支援学校の高等部1年生です。この子は虐待のお子さんです。それから上の16歳のお子さんも虐待のお子さんです。その下に14歳、中学3年生の女の子がいます。児童自立支援施設を経由して12月1日でちょうど3年になります。

一番下に特別支援学校の中等部2年生の男の子がいます。その子も来月でちょうど5年になります。ここまで措置児童が6人です。その他にプラス、今、一時保護で1か月経過している、17歳の女の子がいます。この子は県立高校の単位制の定時制高校の2年です。子ども8人と夫と私とそして愛犬が一匹で生活しています。

ファミリーホームなので養育補助者として、毎日お手伝いに来てくださる方、それ

から土曜日だけご馳走の日になっていて、栄養士さんが今日は、昼、夜、作ってくださっています。フルメンバーはそういうところですよ。ですから障害を持つ子どもが今7人で、療育手帳を持つ子が、3人います。それから精神科に通っている子どもが今、2人おられます。それから非行の子どもが2人います。みんなどこかに引っかかっている子どもしか来ません。こういう状態です。

少し子どもの事例をお話ししたいと思います。

まず、我が家にやってきた子どもたちの表をごらん下さい(表1最終ページに添付)。1番から23番まで。里親で預かった子どもは抜けていますが、うちにどういう子が来たかということを書いています。この中でどういう経路を通ってきたかを皆さんに分かりやすくするために、まず今いる子だけをお話しします。

8番に8歳でやってきた男の子がいます。これがうちの一番下の子で13歳です。乳児院から児童養護施設に移り、2歳から小学校1年生まで児童養護施設です。生まれた時、児相の今はもう課長さんになられた方ですけど、その方が抱っこして、大学病院(産院)から乳児院に連れて行ったと言われている男の子です。その後、小2から知的障害児の入所施設に移されまして、小学校3年生秋までおりました。実は私たちはその子が小学校の2年の途中から児相に頼まれて週末里親というのをしていたのです。知的障害児施設というのは契約による入所施設なので、お子さんたちは金曜日の夜に親御さんが大概迎えに来て帰宅します。日曜日の夜にその施設に子どもたちが帰されるのです。そうすると社会的養護の

子どもはその中では彼ひとりだけだったそうです。それで不憫に思った施設の先生は、週末とかに、交代で自宅に連れて帰ってくださったようですが、週末だけ預かってもらえないかと頼まれたのです。これがまったくの手弁当のボランティアで、「ええ…！」と思ったんですけど、家にはいっぱい子どもがいるので通えない。車で1時間半ぐらいかかるんですよ。頼むほうも頼むほうですけど、私たちも引き受けるほうも引き受けるほうだと思えますけれども。引き受けてしまったのです。そうすると最初は自分たちは月に1回ぐらいボランティアをすればいいと思って引き受けたわけですが、そうはいかずにとうとう毎週行く羽目になったのです。子どもが来てって言うわけですよ。子どもに「来て」と言われると里親の弱いとこですね。行かざるを得ないです。私が行けない時は、主人が、主人は車の運転が出来ませんので、公共機関で迎えに行くのです。私の時は車で迎えに行くわけです。そういう暮らしを10か月近くしたところで、兎相にギブアップ宣言をしました。「お願いします、委託にしてください」と。週末に、金曜日に迎えに行行って日曜日に帰す生活を8か月くらい経つと、他に子どもがいるし、日曜日は行事満載なのでもうアップアップで、お休みがない状態になっていました。それならば委託がよかろうと。とっても癒されるぼーっとしたいいい男の子だったのです。顔が可愛いとかそういうのではなくて、すごく癒され〜る子どもだったのです。それにほだされて遂に強引に委託にしてもらいました。委託にしてもらったのはよかったのですが、どんどんどんどん子どもが変わるのです。どういう風に変

わるかという、ぼーとしていた子どもが、はっきりした子に変わっていくのです。はっきりしたという、いい表現ですけども、はっきり言うと悪く育っていくわけです。あれこれに興味を持つようになって、家の中の物というのは子どもにとって刺激がいっぱい。水道の水を出したり、ガスに火をつけたり何でも試したくなるのです。掃除機で水をわざとこぼして吸い取ってみる。それされると掃除機壊れます。電化製品、いっぺんにやられますので。扇風機、回せるところ外せますね。そういう子の特徴、外せるけど、元に戻せない。あらゆる時計を壊しました。うちにある時計はすべて無くなりました。テレビ、ビデオも。ビデオいくつ壊したかわかりません。でも今はビデオの時代じゃなくなったからいいですけど。テレビも壊しました。チャンネルのところが壊すのです。それを止めるとどうなるかという、実は外に向かって「ガラガラガラ…」。私も声が大きいですけど、彼は私の今の声の10倍くらい大きい声でがなりたてる。で、近所の人から「ライオンの雄たけびが聞こえるで」って皮肉を言われるわけです。で、私たちは「すみません…」って言っているのです。「ごめんなさい」、「すみません」と。うちの主人の母が近所中に、「あの子ちょっとおかしいからすみません」って。でも、私、いいお嫁さんしていたのですよ。

ファミリーホームをするために、家を建て増すために、結婚した当時の、わが家に戻ってきました。娘を私立の小学校にやるためいつとき、私の実家に移っていたのです。私、いいお嫁さんでしたので、子どもが中学校になるまでに帰ってきますという

約束を守って、主人の実家近くの私たちの家に戻ってきたのです。結婚した当初は、農作業を手伝っていました。とてもいいお嫁さんを演じていたわけですので、それで近所の人たちができたお嫁さんって。ただ、ちょっと変わり者。何が変わり者って、何か子どもをいっぱい連れて帰ってくるらしいと。「ちょっと変わり者だけど、ものすごくいい人よ」っていうのを近所の人が言ってくれたおかげで、今の男の子、仮にT君と言いましょ。T君に対してみなさんが好意的になって、「ガーガー言うのはちょっと遅れたお子さんだからで、面倒見る人がいなかった可哀想なお子さん」って。田舎ですから、そうやって近所の人はおやつを持ってきてくれる、「みかんがなっているから持って行き」って言うので、「柿があるから持って行き」と言うので、というように、皆さんが、近所の人がよくしてくれました。彼は本当に目立ちますから、消防訓練があれば消防自動車の上に乗って、遊びまくるわけですよ。ひとりだけで遊ぶのはいいですけども、それを見た近所の悪そうな男の子たちが真似して、小さい男の子たちはみな乗って遊ぶわけですよ。消防訓練にならないのですけれども、面白いでしょう。年寄というのはやっぱり過疎化の町ですので、喜んでくれる。面白い子どもじゃないのって。路上駐車に車に砂で字を書きます。路上駐車をした方が悪いというのは、近所の人みんなが「あんなところに車を止めてね、通りづらいのに止めていたからね」と、いくら子どもに言っても「しょうない、しょうない」って、田舎ですから皆さんが支えてくれました。そういうような男の子です。今は大分よくなりました。

かなり上のお兄さんの影響を受けてですね、チャラオの真似をしたがっております。しかし、それも成長かと。やっぱり知的な部分は、IQは58ぐらいからは上がらず、下がっていくばかりですが、なかなかいい男になってきました。その子が今、一番下です。

その次、13番の15歳、いわゆるチャラオの兄ちゃんですけども、小学校2年生ぐらいから一時保護の繰り返しです。お母さんはどんな方かと言うと、頭はいいと思いますが、精神的不安からか児童相談所に毎日、毎日夜中に電話をかけられる、そういうお母さんを持っています。実は彼が「もう眠れない」と言うほど、お母さんから連日うちにも電話がかかってくる。最初、固定電話にかかって来た時私たちが取りますが、真夜中の3時とか、5時とかです。取らないとどうなるかと言うと、ずっと鳴りっ放しになりますので、私か主人が取るようにしますけど。「子どもを呼んでください」って言うので「寝とります」と言うんですね。夜中の12時なんかはまだ起きていますから、代わります。そうすると延々2時間しゃべっています。彼は、「ふうん、ふうん、ふうん」って聞いています。ふうん、ふうんって聞いているから「聞いているの？」って聞いたら、いや、聞いていないって。ただ、切ったらまたかかってくるから。恥ずかしいって。何が恥ずかしいって、夜中だからいいけど、これが夕食時にかかってくるのが一番恥ずかしいと。家の電話は台所の近くにあるものですから、みんなに筒抜けなのです。で、他の子に悪いから、恥ずかしか…っという言い方をしています。とうとう彼は自分で携帯を買いま

して、お母さんと携帯で話すようになったのですが、これは私には大失敗でした。携帯を持たせたのが大失敗ではなくて、夜中にお母さんからかかってくるのです。時々彼は着信拒否をしているのです。そうすると、その携帯、親御さんの契約になっていますので、お母さんが携帯を解約したのです。今度は彼はどうしたかと言うと、実は離婚しているお父さんのほうとコンタクトを取って、お父さんから携帯を買ってもらう。そしてまた携帯を持ってしまう。今、携帯依存の状態が続いていますけれども、何とかスマホとも折り合いをつけています。「あんた、そんなにスマホばかり買い換えなさんな」と言っても、新型が出るとスマホを買い換えるのです。うちはですね、携帯とか、スマホは親御さんが買った時はいいけれど、私たちは買ってやらないと言っています。そうすると親御さんとの間でコンタクトを取って手に入れる。そういう暮らしを続けています。「借金がないとバイトしたくないもん」と今、コンビニでバイトしているその男の子が言うのです。「あんた、そんなに借金だらけにしなさんな」って私が言っても親御さんがそういう生活だったのです。彼が今まで生きてきた文化というものがありますから、親御さんが借金だらけの生活をするとやっぱり借金だらけの生活を何とも思わないわけです。しつこく私たちは、「返しなさい、返しなさい」って言うところちょっと返すようになり、だいぶ良くなる。そういうふうな状態です。あと、来年の春に高校を出ていきますから、今、主人は車の免許を取らそうと一生懸命です。春から実は自動車学校にやっていますが、のりくりしながら、あとちょっとで免

許が取れそうと言いながらギリギリで通っています。成功体験を何度でもさせたいという状態です。(注。9か月かかり取りました)

それからその下に、番号で言うと16番。13歳で来た女の子がいます。生まれてすぐに乳児院にやられて、2歳半ぐらいで家庭に引き取られますが、一時保護所と家庭とを行ったり来たりの繰り返しです。とうとうお母さんのパートナーとそれから実のお母さんによる虐待で中1の時に保護されました。家に来て3年と2か月くらい経ちますけれども、来た時の身長が128cm、体重26kgでした。うちの娘が小学校に上がった時の身長、体重と一緒にというぐらいの小さな中学1年生でした。今は142cm、体重は40kgです。病院にずっとかかっていた。食べる量が桁外れに多い。どんぶりでご飯を山盛り食べて、高校生の男の子並のおかずの量を2年6か月に渡って食べていました。半年ぐらい前にやっと女の子並の食事量になりました。その子は「何々が欲しい」、「ごめんなさい」が言えないです。やっと少し「ありがとう」が言えるようになったところです。「ごめんなさい」は絶対に言えません。去年、私は干し柿を作ろうと干していたんですが、食べる時期になると半分に減っているんですね。この子をMちゃんと言う名前とするなら、一番下の男の子に「まだ渋かったかもしれないのに」って言ったら、「Mちゃんガラスがおったよ」って言うんですね。「ガラスがおった、ガラスがおった」と言うんですが、ガラスなんかおらんし、屋根があるからガラスは食べないと思うけどって言うと、違う、Mちゃんガラスってなかなかユ

ニークな命名をしてくれました。食べ物に対してやっぱり食べさせてもらっていない執着はすごいものがあって、部屋にお菓子を隠しているのです。私はいつも冷蔵庫の一角におやつスペースを作っていますが、そっと取って行って、食べるならまだいいけれど、食べかけのものを棚の中に隠すので蟻の行列です。いくら掃除をしても部屋替えをしても蟻がいる。「困ったなあ、誰かお菓子を持っていない？」って言ったら、「違う」ってみんな言い張ります。みんな違うって言うけれど、とうとう引き出しの中の下着が蟻の山。真っ黒。「ええ！！」と言うぐらい大騒ぎしました。うちは男子は母屋の2階に2人、女の子は離れにうちの娘も入れて6人いますが、掃除ができていないと、部屋替えをしょっちゅうしています。大体、1カ月に1回、部屋替えをしていますが、部屋が汚いと1か月にならなくてもチェンジさせます。で、誰かひとり悪かったら、「共同責任」って私、言っていますので、部屋替えをする。そうやって出来るだけ綺麗にすることにしています。そういうことを言っても従う子たちです。お掃除も自分の部屋は自分です。お茶碗も自分で食べたお茶碗は中学生になったら自分で洗いましょうというふうにしています。私のこだわりで食器は絶対に良いものしか使わせたくない。だからうちは九州ですから有田焼という焼き物、ご存知ですか？それなりにちょっと高いですが、基本、主人の実家は農家ですから、鉢とか大変高価な物がありますが、絶対にそれを使わせたい、子どもに本物を見せたいというのが私のこだわりです。でも、さっきの女の子ですけど、割るのです。割るのはいいですが、割

ったのを隠し棄てるのです。

これを「ごめんなさい」が言えるようにしたいということをいつも考えています。地道に言っていくしかないということです。

それからその下の17番に中学3年生の女の子の事です。その子は家庭から児童自立支援施設に行き、10か月ほど生活して、うちにやって来ました。どっちかという斜に構えて、下から上を見るような、そういうヤンキーもどきの子どもでした。彼女が言うにはここに来て、「いろんな食べ物を知った、いろんなものを初めて食べた」というのです。布団の無い生活を彼女はしていました。布団の無い生活ってどういう生活かと言うとワンルームマンションで寝ていたのですが、毛布が一枚あっただけです。その毛布を敷いて寝ていた。それから持っているお洋服をいっぱい掛けて寝ていた。お布団が無いわけです。それからお母さんが男の人と出て行ったりすると、女の子3人で部屋に取り残されていたのです。電気は止められなかったけれど、ガスはもう止められていたのです。水道と電気は止められていないのですが、ガスがないので、お風呂に入れないわけです。「どうやってお風呂に入っていたの？どこかに行って入っていたの？」って聞いたら、私に向かって、「お母さん、バケツ2杯でお風呂には入れるよっ」と言うのです。「どうやってバケツ2杯で入ったの」と聞くと、バケツ2杯分を電気ポットで沸かし、水とお湯があるからそれで沸かした2杯の水で、お風呂場で髪の毛洗って、顔を洗って、先に顔を洗う、それから頭を洗って体を洗って、もう1杯分、お湯の方で薄めながら、水を足しながら、それをかけてお風呂は入れるよと言う

わけです。バケツ2杯のお風呂ってみんなに言うのです。それが当たり前と思っている。「食べていたもの、何？」と聞くと、お母さんが月に1回来ると姉ちゃんにいくらかお金を渡して行っただと。それで電気代と水道代だけを払って、残りはラーメンを買っていたと。ラーメン作り、天才的に上手です。カップラーメンなんてもったいないと言うのです。ふつうの袋ラーメンを1か月分買って、小学校2年生から児童自立支援施設に保護される小学5年生まで「どこの家でもラーメンが夕飯だと思っていた」と。ちょっとだけお金がある時はコンビニで唐揚げがあると、この唐揚げがご馳走だったと。もうちょっとお金がある時はそれで食パンを買えるって。そういう生活を2年生、3年生、4年生、5年生の保護される途中までしてきたのです。そういうお子さんです。だから親切にしてくれる人に対して疑り深いところもあります。勉強というのは、させよう、させようとしています。すぐ、諦めるとか、そういう欠点がありますが、来てすぐに私のことを「お母さん」と呼びました。「何で？」って言ったら、もちろん自分の親のことをママと言って区別するけど、「ご飯を食べさせてくれる人はお母さんや」って言うのです。自分は小学校に行っても自分の同級生の近所のお母さんたちから「遊んだらあかん」ってみんなに言われて、遊んでくれなかったし、髪の毛も金髪だった。何で金髪にしたの？と聞くと、「金髪は嫌」って言ったけど、ママとかお姉さんが、余った染粉で髪の毛を金髪にするもんって言うのです。お洋服もお姉ちゃんたちのお下がりだから、ヤンキーな姉ちゃんのお下がりだからみなさん、

どんな服か想像がつかますよね？そういう服だったから遊ぶなって言われて。でも、学校に行ったらいつも校長室に呼ばれて、校長先生から何か貰って食べていたと。校長室に行ったら校長先生が食べなさいと言って、クッキーとか、くれよったと。それが楽しみで学校に行っていたと。あとは給食費など払えないから払ったことがないわけです。母親が就学援助の手続きをしてくれないので、いつも言われるけれど、仕方がない、どうもせんと。担任の先生が払っていたようだというのです。そういった話をぼつぼつして、「ご飯を食べさせてくれる人がお母さんやけん、私のお母さんやろ」と、私に聞くのです。「そうよ」と言うと、なかなか素直な、ぶつかるけれど、いい子です。

それから18番の16歳の女の子。特別支援学校の高等部を卒業して、今、一般就労をしています。この子は1歳半で児童養護施設に置き去りにされたまま、兄妹3人、児童養護施設で生活しています。中3の時にお母さんが突如現れて、家庭に引き取られました。お兄ちゃんたちは引き取られていません。お母さんの新しい家族と一緒に生活するのですが、お母さんとうまくゆかず、1年後にフライパンで頭を叩かれ、一時保護され、うちに来ています。まあ、この子のことを話せば1時間じゃ済まなくなります。私とも何回も喧嘩しました。だけど、実母でなく、私のことを「お母さんだ」と言い張ります。で、自分では夢を持って実母のところに戻ったのです。施設で長いこと、15歳まで暮らして。お母さんが急に来て、楽しい生活を夢みていたら、虐待される生活になって、うちに引き取られて

きました。彼女にとって里親の家は、口うるさくないし、叩かれないし、嬉しいと。施設でみんなと食堂で食事をしていた時は、偏食が多くて食べなかったということです。「何で食べないの？」と言いながら、私、横についてずっと食べ終わるまで待つことにしているのです。そうするとピーマンなど大嫌いなものも、私が怒るからしぶしぶ食べるのです。食べたものすごく褒めることにしています。「食べれたやない！」って。食べたことがないものは、子どもは不味いという判断をするのか、やっといろんなものが食べられるようになりました。今では一応、何でも食べていますが、そういうお子さんです。

それから時間がないので飛ばしますが、22番の女兒は特別支援学校の高等部の1年生。この子は虐待のあるお子さんで、里親家庭に引き取られますが、里母さんが初めての養育で、疲弊してしまいました。男の子についていくのです。買い物の時も、里母さんは、ずっと見張っていたようですが、性的なものに興味が強かったようで、男の子にどうしてもくっついていくものですから。心労が重なり倒れまして、その後うちにやって来ました。神経が細かすぎて責任感が強すぎたのだと思います。私は怒りをしっかり言葉に表すようにしています。勿論、手は出しませんが、悪いことは悪いと。「約束を破ったらつまらん」という言い方をしています。

そして最後、23番の今、一時保護の女の子が17歳で来ています。この子はアスペルガー障害と、躁鬱の2極を合併し、精神科に通院しています。この話をするとこれも長くなりますので、そういう子どもた

ちばかりの生活をしているということです。

我が家には2つのルールがあります。1つは絶対に10時までには部屋に入ること。これは夜中に抜け出したりする子がいますので、それは避けたい。それからプライバシーを確保したい。だからお風呂もひとりで入りなさいと怒っています。すぐに一緒に入ろうとするのです。一緒に入るとはダメと言っています。自分の好きなようにゆっくり入る。風呂はひとりで入ると。誰かと一緒に入って欲しかったらその時は私か、養育補助者の人に言いなさいと。何なら私が一緒に入ってあげるよと。邪魔だったらひとりで入りなさいというルールにしています。10時には自分の部屋に入る。部屋の電気を消して、勉強する以外は電気を消しておきなさい。嘘をつかない。こればかりは口酸っぱく言っています。

うちは盗癖の子がいたこともあります。へんてこなルールを作りまして、盗癖の子がいた時は、盗癖があるのはわかっているので、嘘をつかないようにしているのです。子どもの情報も。盗癖があっても言わなかったら、出して置いたら無くなりますから必ず私たちに預けなさいと。お金とか、財布とか、置いておくほうが悪いというルールにしています。だから大事なものは自分できっちり管理するか、大人に預けなさい。それで無くなったというのは、つまらないと。そして盗った子には悪いことは悪いけど、怒るけど、怒ったりしない。ちょっと分かりにくいかもしれませんが、叱るけど、嘘をつかないことが大事、と。盗ったことは盗ったことで、それでいいと。わかったと。でも、今度から盗らないようにしなさいと。いつも言いますが、盗らないよう

にきなさいと。だけど、嘘はつかないでと。盗ったのに盗らないと言うのは、あなたの信用を無くす。人は何が大事って、信用が大事。盗ったものを盗ったというのはあなたの信用を無くさない。だけど、盗ったものを盗らないと言ったら、信用も無くすよと。悪いことをした上で信用も無くしたら、あなたは生きていけないでしょうと。信用する人ができて初めて人は生きていけるのよと。あなたが嘘をつかなかったら私はきっと一生あなたの面倒を見ると。主人も同じように言うのです。盗ることは悪いけど、嘘をつくことはもっと悪いと。ついでに言うと、そのことを見ていて、言わなかったのも同じだからねと言います。

他に、我が家がこだわっているのは、「あんたがここにいる間は吉田さんだからね」と。家の中では吉田さん、家から一步出たら自分のフルネーム。上下の名前で言いなさいと。家の中ではみんな吉田さんになるのよと。家族ごっこかもしれないけれど、家族だよというのが我が家のこだわりです。ですから地域の掃除とか、ゴミ出しとか、町内清掃とかは全員でやります。「ここで住んでいるのだから全員出るのだよ」と。全員出るからみんな顔を知ってもらって、そしていろんなことを教えてもらおうし、みんなが支援してくれるのです。だから新しい子が来たら、町内にはうちの子しかいないのです。だから、みんな「吉田さんちの何々ちゃん」と、子どもの名前を覚えてくれます。だから苗字なんて知らないです、近所の人皆さん、吉田さんと呼んでくれますが、そのうちに何々ちゃんっていう言い方をしています。

それから我が家の生活習慣は、うちも

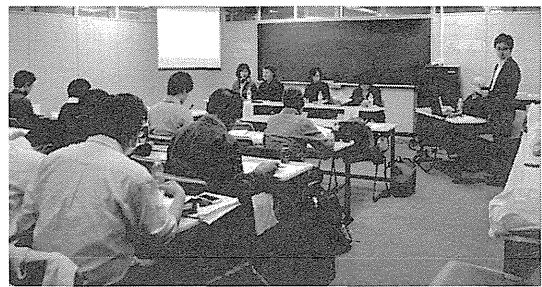
のすごい田舎です。1時間に1本か2本しかバスがありません。ですから一番早い子は、バスが無い時間なので6時に私が駅まで車で送ってゆきます。男の子をのぞいて女の子は全員7時半のバスに乗らないと学校に行けないのです。ですから私が最初の子どもを送る6時にみんな起床です。起こして出ます。私が駅に行って戻って来ると6時半になります。それまでに全員が起きて何をしているかという1個だけお手伝い。これが女の子のルールにしています。7時半のバスで行く子は必ず1個だけお手伝いをしていく。何をかと言うと、女の子の部屋は離れですから、トイレ掃除、お風呂掃除、掃除機かけ、3つぐらいあります。そうすると手分けして、子どもたちは1つだけお手伝いをして行きます。私は6時に出る時に4人分のお昼のお弁当をテーブルにおいておきます。私の起床時間は実は5時半です。主人が5時に起きて私を5時半に起こします。私はその30分が、私、すごい朝寝坊なので、5時に起こされても起ききれないのです。それで主人が私を30分かけて「ギリギリよ、もう時間よ」って起こしてくれます。最初から5時半に起こしてくれると5時40分になるので、敵もさるもので、弁当が間に合わないだろうって。30分間で私を起こしてくれます、5時半から私は超スピードで4つのお弁当を作って、6時に子どもたちを全員起こして、最初の子どもの連れて外に出て行くという生活をしています。10時には部屋に入る。夕飯はいろいろなことがあります、6時半から7時の間はテレビを消す時間になっています。テレビを見たがる子がいますが、でも、この30分間だけはちゃんとみんな

でご飯を食べようねと。こういう風にしています。思春期ばかりですので、とっても進路が心配です。それが我が家の悩みです。我が家には私の生活を支えてくれる近所の人もいます。米ももらっています。野菜ももらっています。親戚がよってたかって支援してくれています。だから出来るのですね。何かあった時には過去には近所の人「誰々君が1万円で購入をしていたよ。あんたはそげんお金を出すとね」って近所の人に怒られたことがありました。私は「1万円札なんて子どもに出すはずがないでしょう」と。そのお金はどうしたかっていうと、私の財布から盗ったというオチが付きますが。やっぱり、1万円札で購入をしたらご近所がわかるのです。そこが田舎のいいところですね。「スーパーで購入をしていたよ」、「タクシーに誰々ちゃんは乗っていたよ」って。タクシーに乗せると、怒られます。私が怒られるのです。子どもは怒られないです、タクシーに乗っても。私が、「何であんたが送っていかないで、それがわかったら近所の人に頼めばよからうに。タクシーやら使わないで」って、近所の人が言ってくれるのですが、何のことはない持ちだしたお金でタクシーに乗っていただけなのです。いろいろ地域の人が見てくれます。とてもありがたいです。我が家には「吉田ホームを応援する会」といって、児童相談所の歴代の所長さんや児童福祉司さんも含めて、それから民生委員さんも含めた我が家を応援する会を作っていただいで、子どもの誕生会とかもしてもらっています。こういう安全・安心があって初めて出来るのです。子どもたちに私はひとつだけ伝えます。あなたたちには、誰にもない

けど、ものすごい教育を受けたことがあるような気持ちになることがあるよと。きれいな言葉使いをしなさい、きれいな言葉使いは品格を上げることができるから、頭が悪くても品格が上がれば人間性が上がるのよというようなことを言って生活をしております。たくさん本当は言いたいことがあります。時間が無いのでこれぐらいにしたいと思います。またいろいろ聞いていただき、ありがとうございました。(拍手)

司会：ありがとうございます。吉田さんにはまたすぐ再登壇していただきます。それでは3時半から後半の部を開始します。

(20分休憩)



司会：それでは3時半になりましたので、後半の部に入りたいと思います。ここからは先ほどのおふたりの発表を受けてフロアのみなさんを交えてざっくばらんに意見交換、議論を深めていただけたらと思っています。招聘講師のパトリック先生が、その先鞭を切りつつ、この場の司会をしてくださるということです。

パトリック先生は今日、3種類の資料を持って来ていただきましたが、皆様お持ちでしょうか？これはパトリック先生からのプレゼント、あるいは宿題ということですので。今日のこの場ではあまり資料にはこだわらず、お二人の発言を受けてのコメント

をしてくださるそうです。最後にひとつ、残念な連絡があるのですが、先ほどお話をしてくださった吉田さんが帰りの新幹線の関係で16時半までしか、こちらの会場にいられないので、質問がある方はぜひ最初に集中して吉田さんにしていただけたらと思います。それではパトリックさん、よろしくをお願いします。

女性1（研究協力者）：吉田さん、ファミリーホームになってお金の問題は解決したんですか？

吉田：そうです。おかげさまでお金のほうはかなり解決しています。もちろん私たちの収入として、人件費として貰っているのですが、私の分はすべて子どもに還元しています。車の免許を取らせたり、資格を取らせに行ったり、プラスアルファいろいろ使えることができるようになったので、私の分は還元するというふうにして。最低限の生活費はいただいていますので。

女性1：学費は里親さんが負担しているということですね？

吉田：学費は高校生に関しては私立は3万2千円、公立は2万2千円ほどですね。それはもう里親時代から出ていたのです。

うちはすごい田舎ですので、高校に通わせる交通費というのは、どうしても自己負担になってしまいます。それとプラスアルファ、自動車学校にやるお金はもちろん出ませんし。ファミリーホームになったので、どう使おうと私の自由ということは、ありがたいと思っています。

司会：もしよろしければ最初にフロアから質問がありましたらお引き受けしたいと思います。いかがでしょうか。

男性1（里親）：里親をやっていますが、うちも子どもが今、17歳で来年の3月で措置解除の年になります。3歳～17歳まで14年間、15年間育てて、それでも自立させるのが大変です。この子のことを知っている方が多いと思いますが、高校も中退して、通信に行って、通信に行ったけど勉強しないので、親が答えを書いて出させているような状況で。途中から育てるのは大変なことです。やっぱり私としてはこういう取り組みも大事ですが、やはりゼロ歳から生後すぐに家庭に受け入れて、そしてそこから育てるほうが費用もかからないだろうし、かかわる人たちも疲れずに、またはバーンアウトせずに済むだろうと思っています。そうは言ってもそういう子どもたちは出て来るので、こちらの活動も必要なのかな、と。これはちょっと感想です。本当にご苦労さまです。

吉田：私は児童養護施設から来た子どもたちは最初から里親委託してくれたらよかったのにと、強く思っています。だけど、うちに来ている子、みんな親がいるのです。でも、親がいて、中学生ぐらいになった時の受け皿として、私は今、中高生を受けているつもりなのです。私は小さい子は里親さんに行ってもらいたいと願っています。里親のほうがうんといいと私は思っています。だけど、私の仕事として、役割として中高生をお預かりしたいなと、うちは。役割分担のひとつかなって思っています。

司会：ありがとうございます。質疑応答は後で。そろそろパトリックさんのお話をお願いしたいと思います。



パトリック・トムリンソン：ありがとうございます。まずお二方、森先生と吉田さん、素晴らしいお話をいただき、ありがとうございます。先ほど森先生からオーストラリアの Lighthouse 財団のご報告をいただきましたが、私は Lighthouse 財団とは3年程前から一緒にお仕事をさせていただいているということで、大変良い事例のご紹介を頂いたかと思えます。Lighthouse のモデルですが、これは、非常に熟慮を重ねた形のモデルということで、20年以上も前から積み上げられた仕事の実績があるわけですが。かなり詳細に渡って、いろいろな部分から考えを重ねて作られたモデルであるということで。2年程前にこれについては、本を出版しております。(日本語訳 2013 年 12 月 福村出版より出版：トムリンソンら原著：開原久代ら監訳：「虐待を受けた子どもの愛着とトラウマの治療的ケア～施設養護・家庭養護の包括的実践モデル～」)

非常に興味深いお話を森先生から頂き、その後に吉田さんから実際に違った視点からの子どもたちのケアということで、また別の視点を頂きまして、こちらも大変興味深く伺っております。かなり年長のお子さん方のケアということで、非常にいろんな inspiration を得ました。

昨日も里親の皆さんとお話をさせて頂いている中で、質問が出たのですが、里親というのはそもそも愛情を注ぐ親という位置

づけであるべきなのか、それともプロとしての里親であるべきなのかという、問いかけが出ていました。

それではこれからいろいろな質疑応答に入っていきますが、社会的養護を受ける子どもたちのいろいろな形でのケアの仕方があるかと思えますので、それについても話をしていきたいと思えます。

「Lighthouse モデルと吉田ホーム」

先ほどご説明いただきました Lighthouse のモデルですが、これは吉田さんにお話いただいた内容とはかなり異なる部分もありますが、一方ではいろいろな共通点も多いかと思えます。お二方ともご説明いただいたのは、やはりケアを離れる時、リービング・ケアのいかに難しい部分があるのか。子どもたちが独立していくにあたって、いかに困難な状況なのかということに触れていらっしゃいました。

一方、Lighthouse のモデルでは、一生を通しての life long membership 会員になるということ、また吉田ホームの方でも一生家族の一員であるというかわりをしておられるという意味では、同じようなお話をいただいたかと思えます。Lighthouse と吉田ホームの違いというのは、やはり Lighthouse のほうでは必要な支援を、体制作りということでかなり整った形で提供されているという点ではないかと思えます。その指導にあたる supervisor とか、心理士の方とかですね。ケアラー（養育者）にもちゃんとしたサポートの体制が整っているということです。これを wellness と言いますが、本当にケアラーの健康にも気を使うような支援体制が整っているということです。これは若い子どもたちだけで

なくて、ケアラーのサポートもしているという点が違いではないかと思います。

「吉田ホームは例外的なモデル？」

では実際に里親をどなたがケアすべきか、ということです。これは吉田さんのお話のように、独自にいろんなネットワークを作って、里親の方をケアする体制作りというのをやっておられる場合もあるかもしれないのですが、一方で、そういった支援が受けられていない里親の方もかなりいらっしゃるかと思います。吉田さんの先ほどのお話ですが、本当に素晴らしい方であると感じましたし、多くの inspiration を受けました。ただ一方で、他の多くの方が真似できるかという意味では吉田さんのモデルはそこまで現実的ではないかかもしれないと思います。と言いますのは8人程のお子さんと同じ家に住んで、5時くらいに非常に早起きしてお弁当も用意して、というそこまでの大変なお仕事をこなせるのは本当に他ではそういらっしゃるのではないかという、そういう意味では例外的なモデルではないかと思います。

「一般的なケアモデル」

今、ここにこうやって私たちが集まることができているのも、開原先生を代表とする3年間の研究プロジェクトのおかげで、こういう機会をいただいておりますが、自分の家族と一緒に住むことができない子どもたちにとって、最も適切なケアというのがどういうケアなのかということが、我々が研究課題に置いているポイントのひとつであります。これは家庭養護であれ、施設養護であれ、どちらにしても何が一番適切なのかということ子どもたちの視点から見えています。

例えば、専門里親という形での里親制度を活用する場合がありますし、比較的小規模なグループホームということで、5人～10人の子どもたちを世話したり、3人～5人ぐらいの非常に小さな単位でのケアもあります。もしくは Lighthouse のような形での展開もあります。また、非行の青少年を対象にした、より Security のあるホームという形もあるかもしれませんが、かなり大規模な40人規模の養護施設もあるかと思っています。

では、どういった施設がその子にとって適切な施設なのかということですが、先ほどの吉田さんのお話にもありました通り、小さなお子さんは里親のもとでお世話するほうがよいのではないかということです。ほとんどの国ではそういうガイドラインの方向で動いているかと思っています。そして年長の子どもたちが施設に入るといった形態になるかと思いますが。

「社会的養護に関する欧米の研究」

私のほうでちょっとランダムにメモを取っていますので、それぞれの違ったモデルに関して私の考えを少し共有させていただいて、それから質疑応答という形で話を進めていきたいと思っています。

これはイギリスで行われた研究ですが、どの程度子どもたちの意見を取り入れて、どこに措置するかを決めているのかという調査結果です。子どもによっては家族とは住みたくない、どこかの家庭に入るの嫌だということを明確に主張する子どももおりました。明らかに施設に入りたくないという子どもも確かにおります。そういう子どもはパーセントにすると割合では少ないかもしれませんが、ただ、どういう環境に住

みたいのかということ、子どもの意見をくみ取ることが正しいことだと思います。例えばですが、既に自分には家族がいるのに、どうしてまた別な家庭で過ごさなければいけないのかという子どもいるかと思えます。

カナダの Anglin という研究者は、Foster Care がほとんどの子どもに適した形態であると言っていますが、必ずしもすべての子どもに当てはまるかという、そうではないと言っています。子どもによっては実の親、実の家族以外の家庭に入ること、やはりそこで自分の家族に対する忠誠心が分裂してしまうような状況になってしまうということです。また、別の家庭に入ることのプレッシャーを感じてしまうことです。やはり親密性と言いますか、人とのつながりの絆の強さの意味で、別の家庭に入ることに非常に違和感を感じてしまう子どももいるということです。

ここ10年程の間に世界中で様々な研究がなされてきましたが、里親家庭がおそらくほとんどの子どもにとっては最も適切な措置であるということが言われています。かといってこれがすべてのケースに当てはまるわけではないということなので、そういう意味で様々な選択肢を用意すべきであります。ですから非常に quality の高いモデルが里親でも、施設でも必要になってきます。

「地域、養育者との絆」

お二方ともいかに地域社会とのつながりが重要であるかというお話を下さいました。吉田さんは特に、非常に地域の近隣の方々のつながりが、重要であるとおっしゃってましたし、森先生も Lighthouse とそ

の地域の社会の皆さんがかなり助け合って励まし合いながら活動を続けているというお話があったかと思えます。

お二方とも愛着の問題に関しては、おっしゃったかと思えますが、施設ですと離職する方も多いかと思えますが、離職が愛着の問題の妨げになっていると思えます。一方で里親の家庭であればその問題がないかという、そうでもなくて、里親がこれはもう手におえないというような状況になると、子どもはその家庭を離れなくてはいけない可能性もあります。そうなるとここで愛着の絆は切られてしまいます。イギリスやアメリカでは子どもが20か所以上の里親家庭を転々とするケースもあります。吉田さんもおっしゃっていたようにグループで、大きな施設で過ごすことに大変ストレスを感じる子どもがいる一方で、家庭という環境のほうがストレスを感じる子どもも中にはいます。吉田さんご夫婦のように7~8人のお子さんを世話されながら実のお子さんも含まれているということですが、一方、Lighthouse のモデルでは、大人が二人住んでいるわけですが、必ずしもこの二人が結婚しているとか、パートナーであるというわけではなくて、雇用されて Lighthouse で仕事をしているという意味で親的な役割を果たしているのです。そういう意味で、家庭を作るということに関しても必ずしも結婚した夫婦がかかわらなければならないというわけではないのです。こういった意味では別のモデルが存在し得るということですね。ですから「治療的家族モデルケア」と呼ばれていますけれども、家族のようであり、実は本当の意味では家族ではなくて、家族的なモデルであるということです。

「トラウマと発達障害と愛着障害」

先ほどの吉田さんのお話の中で、当初、非常にIQが低いのではと思われていたお子さんで、実際のところかなりIQも高くなったというお話がありました。ほとんど養護を受けている子どもたちは、おそらく半分以上の子どもたちは何らかのトラウマ体験をしているということが察せられると思います。こういうトラウマを受けた子どもたちというのは、いろいろとレッテルを張られるわけですが、ADHDとか、何か学習障害があるとか、いろんなラベルを張られますが、その根底にあるトラウマ自体がきちんと認識されていないがために根本的な問題が治癒しないのです。ですから愛着の問題など、その部分がきちんとケアできれば自ずから治癒する、癒されていくという状況になってくると思います。

食べ物を盗んだりというお話もいただきましたけれど、ものすごく食べてしまうお子さんのお話も大変興味深く伺いました。多くの要保護児童がネグレクトの犠牲になり、いろいろ大変な思いをしてきた子どもも多いと思います。先ほどのお子さんは栄養失調状態であったかと思います。思うように食事も与えられていなかったような状況だったかと思います。

ここ10年ぐらいの間で脳の発達に関する研究がなされておりますが、子どもたちを養っていくには食べ物だけでは十分ではないということが研究の結果、言われています。ですから子どもが成長を遂げていくためにはただ、食べ物を与えるだけでは十分ではないということですね。やはり心がきちんと通じ合うこと、心が非常に大事であると言われております。イギリスでは40

年ほど前から言われていることですが、子どもたちの成長がきちんと食事を与えられているにもかかわらず、うまく成長、発達を遂げることができない、そこに不調が生じていることが取沙汰されております。今、先ほどの吉田さんの例で、非常に食べ物の問題を抱えていたお子さんですが、物理的な食べ物を与えられていない、飢えという状況を確認に体験されていると思いますが、一方では愛情の欠乏も体験されているわけです。その子が必要としていたことは、誰か愛情をもって世話をしてくれる人だったと思います。ですから子どもたちがきちんと発達を遂げて回復していくためには、これは必須のものだと考えています。これは環境が里親という家庭の中であれ、施設養護であれ、やはり子どもが求めている必要なものというのは、同じだと思います。これはやはり往々にして、最初に措置された体験をした子どもたちの中では、初めてやっと世話をしてもらえる環境に来て、そこで当初の期間、かなり大量に食べ物をたくさん食べるというような現象は他でも起こっています。

また、先ほどおっしゃっていたように食べ物を盗んだり、食べ物を隠して棚の中とか、引き出しの中に入れて置いたとおっしゃっていましたね。ある意味、食べ物そのものによって子どもたちは満足するということはないのです。食べ物を求めているというよりもこれまで与えられなかった愛情を求めているのだと思います。その世話をしてくれる人を信頼することができて初めて、先ほどのお子さんの例で言えば、吉田さんを信頼することが出来て、初めていろんな栄養を受けることができ、愛情を含め

た栄養をやっとその子が受け取ることができるようになったのだと思います。十分に長い期間、満たされた状況が続けば、それ以上大量に食べる必要はなくなってくるわけです。先ほどのお子さんの例は、どういう形でサポートされ、どれだけの進歩があったというお話ですが非常に興味深く伺いました。おそらく直感的に吉田さんは何をこの子は与えられていなかったから、こういう行動に出ているのか、すぐにお察しになられたのだと思います。懲罰的にその子を罰するということはせずに、忍耐強く対応されたのだと思います。今のような例は、他の里親の家庭でも起こり得ることですし、また、施設養護でも当てはまるケースであるかと思えます。施設養護であれ、里親という状況であれ、子どもがどちらのほうに住んでいても、先ほどの吉田さんのように直感的に状況を把握して対応することは、必ずしもケアラーの皆さんに出来るわけではないと思います。ですから自然にそれが身についている、備わっている方ばかりではないと思います。逆にこれは珍しいケースだと思いますので、そういう必要な知識とか、経験、理解を他のケアラーの方にも伝えていくにはどうしたらいいかがひとつの問いかけでもあると思います。

「養育者の対応と子どもの発達」

子どもにどういう対応をするかですが、正しく対応をすることができるとその子がトラウマから回復するという大きな変化を遂げさせることが可能になると思えます。一方で誤った対応をしてしまうと、例えば何て卑しい子だとか、そういう風に責めたり罰を下したり、そういう対応をしてしまうと逆に事態が悪化してしまうということ

で、まったく役に立たない、逆効果の結果を導いてしまいます。

子どもの発達ということに関して、2点ほど更に申し上げたい点があります。1点目としては研究の結果出ているのは、すべての子どもたちがやはり自分たちは正常なんだということを体験する必要があるということがわかっています。これは親元で暮らしている子どもたちも同様で、また施設養護、里親養育を受けている子どもたちも同じように、発達段階にある子どもたちはすべて自分はノーマルで正常なんだと感じる必要があることがわかっています。

2つ目ですが、子ども同士の関係も非常に発達上重要な要素であります。3歳～5歳ぐらいの子どもで、他の子どもたちとうまい関係づくりができる子どもはその後も順調に発達を遂げることがわかっています。これはやはり親がどういう風にかかわってきたのかに起因しているのかもしれないのですが、施設養護であれ、里親のもとでの養護であれ、いかに自分たちがノーマルのだと、正常な子どもだということを経験させてあげられるかということと、いかに子ども同士の良好な関係を築ける機会を与えることができるのかということが、両方の関係において重要だと言えるかと思えます。

それでは吉田さん、お時間も限られていますので、まずはじめに何かコメントをいただければと思います。あと3、40分ございまして、皆さまからもご質問等あればぜひお聞きいただければと思います。

ご質問される際は、Open question ということで、どなたでも、という形でご質問頂いても結構ですし、もしパネリストのど

なにかに具体的に名指しでご質問いただいても結構です。日本語で質問していただいても、通訳していただきますので。



女性1：吉田さんは8人も子どもさんを同時に預かっているわけですね。しかもそのうちの3人は障害があり、2人は精神科に通っているというかなり大変なお子さんですね。ひとつの家庭が8人も子どもを預かるということが可能なのかということを感じています。頑張っってそれを可能にさせていらっしゃると思いますが。いろいろな国ではひとつの里親家庭が何人の子どもまで預かることを認めているのかどうか、先生に伺ってみたいのですけれども。

トムリンソン：おっしゃる通り、吉田ホームの例はかなり卓越した例ではないかと思えます。滅多にないですが、ただ、まったく他に事例が無いかというところもそうでもないのです。他の国においてもそういうことを、実際に実現されている方はいらっしゃると思います。ただ、いろんな意見もありまして、イギリスにおいてはそこまで多くの子どもを同時に引き受けるということはいあまりポジティブに、肯定的に見ない人たちも確かにいます。ですから同時には2、3人に制限すべきであるという意見を持っている人たちもいます。私は必ずしもそれに同意してはいないのですけれども。

吉田：いっぺんに来たわけではないのです。1人増え、2人増え、3人増えてきたとい

うだけです。ファミリーホームになった時も新しい子と、ファミリーホーム前から引き続きの子が二人でした。新しいファミリーホームになる時には2人加わり。それからうちの娘と前にいた子です。前にいた子というのは、18歳以上になって措置が終わった子で。ファミリーホームのスタートはそういう状況でした。それまでも里親になって徐々に、最初、3人、4人、5人となって、多人数養育で5人をずっとしてきました。昼間は、5人をずっと、私ひとりでやってきたので、夫は仕事に行っていましたので。今は養育補助者もいるし、楽チンなのです。本当はあとひとり欲しいと思うくらいです。私は楽チンで滅茶苦茶楽しい。苦しかったらできなかったと思います。本当に楽しいのです。非行の子と障害のある子が混じっている時はやっぱり苦しい時がありましたが、障害の子は普通の子と一緒にですよ。かえって、障害のある子は「お母さん」って言うので、楽しくてたまらない。多分、障害児を預かっている方、皆さん、そうおっしゃるのではないですか？かえって普通の子のほうが、難しいかも。というので、とても楽しいです。実際、一度家に来てください。障害のある子って思わないかもしれない、皆さん。「えっ！本当に手帳を持っているの？」と、よく言われます。とても楽しく、私は里親冥利に尽きるので。あとひとり来ないかな…。一時保護は2人までいいということなので、あとひとり来ないかなって、実は待っています。子ども同士が育ってくれています。トムリンソン：ときに必ずしも規模が小さければ、大人数よりもやり易いかということではないですね。昔、私が施設で仕事

をしていた時の話ですが、必ずしも子どもの人数が少ないからやり易いかと言うそうではなくて、逆にやりづらかった時もありました。例えば7、8人のグループであれば規模は大きいですが、お互いにプラスしあい、お互いに得るものがあったということもありました。人数が少ない、小さなグループであればまた、難しい局面というのが出て来るのです。非常に緊張感も高まると言いますか、ひとりの子どもに何か問題があると、それが全員に影響してしまうということもありました。今、記憶にあるのはひとり女の子。彼女は3人という数は止めて欲しいと言っていました。4人、5人、6人ならいいけれど、3人というのは大変なので止めて欲しい、と言っていた女の子がいたのを覚えています。

女性2 (里親) :たとえばファミリーホームとか、小規模児童養護施設と言うのは定員が6とか10とかですが、子どもの入居が1人とか2人になる場合もあります。イギリスの治療的部門で、よりきめ細かくケアするために1人、2人の入居というのはあるかと思いますが。暫定定員はあるのでしょうか？それとも公的、たとえ1人、2人でも施設を運営していただくだけの公的補助金がちゃんとバックアップされているのか、イギリスの例で聞きたいのですが。

トムリンソン :支給はひとり当たり、個々人に対して支払われています。そういう意味では施設での養護の場合は何名まで収容できるというのは制限があります。里親に関してですが、これはケースバイケースで。その里親家庭でどれくらいのお子さんに対応できる能力があるのかを個別に評価していきます。

開原 :英国では、子どもの数が足りないと、それだけ予算がおりにないから大変だというお話を2011年にSACCS治療センターを訪問した時に伺いましたが。

女性2 :そうです。定員が設定されているので多いほうがいいです。大変ですけど。だけど、ファミリーホーム、里親にしても公的補助金が少なくなると里親もできなくなるという現状にぶちあたるかと思います。もちろん、皆さん、福祉の心があるのでそういうものじゃないと思いますが、やっぱりどうしても職員を雇ったり、いろんな方々を有償ボランティアでお願いすることがあるので。施設を運営していく場合にそこが一番大事になるのでは。

トムリンソン :イギリスの場合ですが、ある里親制度を運営している組織があります。そこに里親は雇用されるような関係、雇用関係を結ぶというそういうケースもあります。ですから給与を得ながら里親として働き、子どもを見ていない期間があっても給与を受け取るという体系があります。先ほどもおっしゃっていたかと思いますが、やはり安定性というものが必要になってきますので、もし、里親の方にたまたまお子さんが途切れた時にまったく報酬が入って来ない、収入を絶たれるような状況になってしまうと、里親として継続することを諦めざるを得ないという状況になると思いますので。

吉田 :子どもが来なくなった時は、里親不適合と児童相談所が判断したんだろうと思うようにしています。私は仕事としているつもりはまったくないので。10年ぐらいしたら、ただの里親に戻りたいと主人と話しています。そして1人か2人預かって、